

ひろば

第21号

平成 29 年 1 月発行



自治会の行事に参加を

熊谷市自治会連合会副会長
大島 茂

新年明けましておめでとうござ
います。本年もよろしくお願
いいたします。

近年は、自治会を脱退する人
自治会への入会を拒否する人が
いると聞くことが多々あります。
しかし、人間は一人では生きてい
くことは難しいとも言われていま
す。自治会とは、人間が生活して
いく中で、一番身近にある社会環
境なのです。

それぞれの自宅は、その自治会
の区域の中に存在しています。自
宅を一步外に出れば、隣人が住ん
でいます。多くの人々が生活を営
んでいます。これらの人々と接す
ることができるのが自治会であ
り、自治会の行事なのです。53
0運動、防災訓練、各種レクリエー
ション大会等々に参加すること
で、多くの人達と接する機会がで
きるのです。コミュニティが生ま
れ、意気投合する人との出会いも
生まれることでしょう。

生き甲斐のある人生を過ごすた
めにも、積極的に自治会の行事に
参加しましょう。そのことが生活
に彩りを添えることにつながるは
ずです。

◇銀座二丁目自治会◇

会長 大久保 順弘

銀座二丁目自治会は、銀座自治会連合会の中で、JR高崎線、線路北側に沿うように、東西に長い町内になります。

自治会加入件数は、戸建、マンション、事業所の総加入件数が242世帯にて構成される町内となります。

特に銀座地区の中でも、ニットーモール、ヤオコー、ベルク銀座、シダックス、などなど商業施設が多い地区でもあり、休日になると大勢の方々が行き交うとても活気の有る町内でもあります。

ゴミゼロ運動

ゴミゼロ運動は自治会事業の中でも大きなイベントの一つでもあり、毎回、大勢の方に参加いただき老若男女、皆さんで楽しく行っております。

最初に紹介させて頂いた通り、東西に長い町内のため、なるべく多くの方に参加いただけるよう、集合場所も4ヶ所設け、町内の丁度中央に有る公園までゴミ拾いをしながら集



まっていたいただき、公園内の除草作業、そして集めて頂いたゴミの分別をして頂き、最後に参加いただいた皆さんにお菓子を配り終了となります。最近では、マンション関係の方々の参加も多くなり、その為か小さなお子さんの参加も増え大変にぎやかなゴミゼロ運動となっております。

親睦旅行

毎年、6月頃になると『町内親睦旅』と題し、大勢の方に参加いただいております。

今年、『東京下町ツアー』という事で東京の下町、葛飾区の『寅さん記念館』『柴又帝釈天』『隅田川水上バス浅草〜日の出桟橋』に行つて参りました。

やはり柴又と言えば川魚料理が有名な場所でも有るといふ事で、ご参加いただいた皆様には、日頃より自治会活動にご協力を頂いている事も有り、もうこれ以上なにも出ないと言う位のサービスで鰻屋『創業二五〇年川千家』さんにて、昼食を取つて参りました。食事の後は帝釈天へお参りをして参道沿いのお店で買い物をして楽しい時間を過ごして参りました。予定コースを終了後、時間に少し余裕が有りましたので、巣鴨のとげぬき地蔵にも寄つて来ました。

参加頂いた皆さんの笑顔を見ると、役員総出で計画を立て、旅行が大成りに終わり本当に良かったです。



新年会

毎年、30名程の会員の皆さんに参加いただき、年の初めを楽しくお祝いしております。

年初めという事もあり、銀座自治会連合会長の出井哲司会長および、地元市議会議員でもある野澤ひさお議員にもご参加いただき、皆さんで昼食を取りながら、ハズレ無しのビンゴ大会などで、2時間程では有りますが楽しい時間を過ごしております。

最後に、銀座二丁目自治会は役員11名、下は30代からは70代と幅広い年齢層の中、先輩役員より指導して頂き、若手を中心に自治会活動を楽しく運営する町内です。



◇新堀自治会連合会◇

連合会長 森田 勝美

新堀地区は明治42年開業の乗降客3万人超を数える籠原駅を中心とし、北は別府地区、東は玉井地区、南は三ヶ尻地区、西は深谷市東方に隣接する地域です。駅南は区画整理され整然とした街並みが広がり、駅前には村社である諏訪大神社が鎮座しています。駅北は、長年に亘った区画整理事業も終盤に差しかかり完成が待ち望まれており、周辺には住宅地が広がり、熊谷の副都心として更なる発展が期待されています。

新堀自治会連合会は、昭和31年に玉井自治会連合会新堀自治会として始まり、昭和61年4月に玉井連合より分離し、新堀自治会連合会が発足しました。南の第一自治会、北の第二、第五自治会に区分してはいますが、全ての財産・資産は連合会で管理しており、事業や活動は単位自治会ではなく連合自治会の運営方針をもとに行っています。

新堀自治会連合会では、環境美化や防災防犯、安心安全に関する事業など様々な事業を実施しています。事業を実施するために、40数名の理事が活動の最前線に立ち、それぞれ総務部・社会部・環境衛生部・防災部・防犯部・体育部・広報部・防犯灯管理部・チームGENKI(地域活性化)に所属し、活躍しています。

新堀自治会連合会の年間行事は、次の4大行事を中心に進められています。

敬老会

9月に実施し、多くの敬老者に記念品を贈呈しています。さらに、99歳以上の元気な方を対象に新堀独自の記念品を贈呈しています。今後も更なる長寿の里作りを目指します。



体育大会



今年で39回を数えます。健康と親睦、地域の融和を図るため、毎年10月初旬に開催し、終了後にはビンゴゲームで大きく盛り上がります。

ハンドメイドフェスタINカゴハラ

地域活性化を目標に平成25年から始まり、10月中旬に行われます。園児のお遊戯や小学生の合唱、中学生の吹奏楽で始まり、我が家の一品料理や新鮮野菜、アウトレット商品、手芸等多くの安価な物品販売と手作りグライダー等で秋の一日を楽しみます。



防災訓練

平成15年に自主防災組織を立ち上げ、毎年11月に実施しています。毎年訓練を工夫し、一人暮らしの高齢者や障害者等の安否確認を取り入れ、万全を期しています。各自治会には、主に機材収納の倉庫、又、大きな備蓄倉庫2基があり、2リットルの水2000本を始め、缶詰、乳児用ミルク、ビスケット等の非常食や多くの生活用品と簡易トイレやテント、毛布、発電機等、非常時に備えています。



このほかにも、5月・12月のゴミゼロ運動、新堀川の端のコスモス植え、新堀小学校や公園の清掃活動、エコキャップ回収運動、広報誌の発行も実施しています。また、平成19年に防犯パトロール隊を組織し、夜間パトロールの実施と子供達の登下校の見守り活動等地域の安全活動に取り組んでいます。防犯灯のLED化も終了し、防犯の抑止力を高めるために防犯カメラも3基設置しました。今後も毎年増基予定で、地区の安心安全を重点に地域力を高めていきたいと思っています。



◇長井自治会連合会◇

連合会長 長島 友伸

長井自治会連合会は、8地域で18人の自治会長で構成されています。各自治会それぞれ地域の伝統や特色を生かしながら、新しい時代のニーズに応え自治会活動を展開しているところです。そんな中、上根自治会の中で際立って輝いていて、地域の守り神であり、なくてはならない「上根自警消防団」を紹介させて頂きます。

「上根自警消防団」の発足

上根自治会は、329世帯で単一自治会では大所帯だと思います。上根消防団の母体は、昭和40年に発足しました。その後、先輩方が時代の変化と共に消防団の活動や運営、消防団員の心構え等に力を注ぎ、平成元年に上根地域の安全安心安定、そして心の繋がりを目的として現在の「上根自警消防団」が発足しました。

活動内容は幅広く、ひろば第16号で掲載をさせて頂いた「上根神社と臥牛」の上根神社の除草や清掃や木の枝おろしを行い、明るい環境づくりにも貢献しています。また、遊具の点検も行っています。時には、側溝等の清掃も行い、環境衛生にも寄与しています。

消防の活動としては、所有している可搬式のポンプ車の水の放出点検、エンジンの点検や燃料等の点検、また、本火災鎮火後、再発火しないよう待機したり、大晦日に車での防火・防犯のアナウンス等を継続してきました。

活動の定期化へ

平成20年度になり、自警消防団の活動の定期化を図る動きがありました。このことが提案されると、即決、即実行となり、熊谷消防署指導の下に消防訓練や人命救助訓練や、全団員60名を8班に編成して週に1回広報車及び徒歩によるパトロールを行うなど活動が定期化されました。

広報車の役目は、軽トラックに放送設備を設置し、上根区内を限なく低速で走行し、住民に防犯・防火に対する意識高揚の啓発アナウンスをしながらパトロールすることです。(自警消防団員は1名が参加。)

徒歩によるパトロールは、防犯グッズを身に付けて、日によつては、2グループに分けて東コース・西コースを巡回し、危険箇所、危険が予想される場所等のチェックをしています。このような活動は、防犯等の抑止効果も大きいと思います。

「しらこぼと賞」受賞

他の地域の方から、「上根はいつも、何をやっても、良くまとまっているね。」とよく言われます。

上根には、農事関係や公民館の分館、神社仏閣等様々な会がありますが、その中に、自警消防団員の人たちが入っており、中心的な役割を果たし、責任を持って行動しています。

上根自警消防団は、いままでの功績が認められ、自治会の推薦をいただき、栄えある「しらこぼと賞」を平成28年11月14日に受賞しました。

これから、引き続き上根地域内をパトロールする上根自警消防団団員の活動が期待されます。



平成 28 年度県外研修

10月26日(水)、全自治会長を対象とした県外研修を新潟県燕市で実施しました。今年度のテーマは「**笈ヶ島自主防災組織 地区防災計画策定の取組に学ぶ**」でした。研修の概要は以下のとおりです。(詳細につきましては、熊谷市のホームページでも公開しています。市ホームページ内で「平成 28 年度県外研修」でキーワード検索すると該当ページが見つかります。)

I 燕市の自主防災組織への活動支援策について

(燕市総務部防災課防災対策係長 渡邊 徳昭 様による講演)

新潟県は災害が多いイメージがあると思いますが、県内の他市と比較すると、燕市は大きな自然災害による被害が少ない地域です。市民の防災意識や市職員の災害対応能力は低い状態だと考えられます。このような現状を受けて、防災講習会や防災訓練、図上訓練等を実施し、防災意識の向上に努めています。

具体的な取組としては、①2つの補助金(地域防災活動推進補助金と自主防災組織資機材補助金)の交付、②燕市総合防災訓練の実施、③燕市防災リーダー養成講座の開催、④地区防災計画策定の支援、⑤災害時の住民への情報伝達手段の周知があります。



II 笈ヶ島自主防災会地区防災計画策定の取組

(笈ヶ島自主防災会 前会長 藤井 秀人 様による講演)

笈ヶ島自治会は、人口688名、209世帯、面積約1.01km²、大河津分水路と信濃川に挟まれた場所に立地しています。1896年の大洪水「横田切れ」を契機に整備された大河津分水路のおかげで、今のところ外水被害は発生していませんが、2011年の新潟・福島豪雨では、越水ぎりぎりとなりました。また、近年は住宅の造成により排水の逃げ場が無くなってきており、一昔前には発生しなかった道路冠水が多発している状態です。

笈ヶ島自主防災会では、消防団と連携した避難訓練を実施しています。また、地域コミュニティ活動として排水路の草刈りやゴミ拾いも実施し、道路冠水や内水被害の防止につなげています。地区防災計画の策定にも取組みました。防災というと重く考えがちですが、「何かのついでの防災活動」を意識し、無理のないペースで活動しました。具体的な活動としては、窪地マップ(地域内の高低差を色付けし「見える化」した地図)に冠水箇所や被害のなかった場所などを落とし込み、防災マップを作成しました。活動を進めていく中で、避難場所の不足や自治会の分断という課題も見えてきましたが、新たに地元企業と覚書を締結したり、近隣の自治会と意見交換を始めました。作成した防災マップは全戸配布しました。

今後は防災の取組がより広域的に広がってほしいと思います。私自身様々な災害を体験しましたが、その一つひとつが現在の防災意識につながっていると思います。防災活動に必要なのは経験値です。地域で災害が発生したら、率先して写真などで状況を記録し、検証することです。活動への情熱も必要です。自治会長には、経験値と情熱が求められるのではないのでしょうか。

平成 28 年度講演会

11月18日(金)、大里生涯学習センター「あすねつと」において、講演会を開催しました。この事業は今年度の新規事業で、今回は東京都立川市大山自治会相談役佐藤良子氏をお招きし、「命を守る自治会活動 - 会長として15年間で取り組んできたこと -」をテーマに講演していただきました。講師の創意工夫をこらした自治会活動経験談をお聞きし、参加者にとって大変参考になる講演会になりました。



平成28年度座学研修

8月26日(金)、江南公民館において、座学研修を実施しました。この事業は今年度の新規事業で、自治会運営について情報交換し、今後の自治会運営に役立てていくことを目的に開催したものです。当日はグループごとに、各自治会の活動事例や課題について、情報交換・意見交換を行いました。

◎参加者の感想

- ・各自治会の話が聞けて、ためになった。
- ・今後はテーマごとに話し合いをしてみたい。
- ・またこのような機会があれば参加したい。



平成28年度市長との懇談会

11月4日(金)、熊谷市緑化センター研修室において、市長との懇談会を開催しました。今年度は、「ラグビーワールドカップ2019開催に向けた取組」、「自治会の諸問題」について市長と懇談し、現在の市の取組状況や自治会の現状について活発な意見交換が行われました。



第6回親睦グラウンド・ゴルフ大会

10月14日(金)、くまがやドームにおいて、第6回親睦グラウンド・ゴルフ大会を開催しました。今年度も自治会長同士の交流の促進を目的に、ランダムでチームを編成し、競技を実施しました。当日は同じチームのメンバー同士でコミュニケーションを深め、自治会長同士の新しいつながりが生まれました。



編集後記

熊谷市自治会連合会では、昨年「座学研修会」と「外部講師による講演」の2つの新しい事業を実施しました。今回の企画が各地区の自治会運営の参考になることを期待しております。一方で、昨年は4月に熊本、10月には鳥取で大きな地震災害が発生しました。一昨年9月の茨城県常総市の鬼怒川決壊災害も記憶に新しいところです。東日本大震災から5年が経ちましたが、短期間にこれだけの頻度で災害が発生していることから、関東地方に影響があると予想される首都直下型地震などに対する備えが必要であると考えます。

今回の「ひろば」作成にあたり、ご寄稿いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。各自治会では、それぞれ特色のある活動をされており、中でも新堀自治会連合会の自主防災活動は各自治会の防災活動の参考になるのではないのでしょうか。

防災講習等では、過去の事例教訓から、万一災害が発生した場合3日間は無助と共助で急場をしのいで欲しいと要請しています。いざ災害が発生すると、行政を含めた公共機関は情報収集等に追われ、手が回らなくなるからです。起こらなければ幸いですが、有事に備えた飲み水と保食の備蓄を自治会が中心となつて考える必要があると思います。

熊谷市自治会連合会副会長 飯島 要